

熊本市新庁舎交流・共創スペース等利活用検討 に係るマーケットサウンディング調査

インフォメーションパッケージ

2025年11月

熊本市庁舎建設課

PwCアドバイザリー合同会社

(熊本市新庁舎市民交流スペース利活用検討支援業務委託受託者)

目次

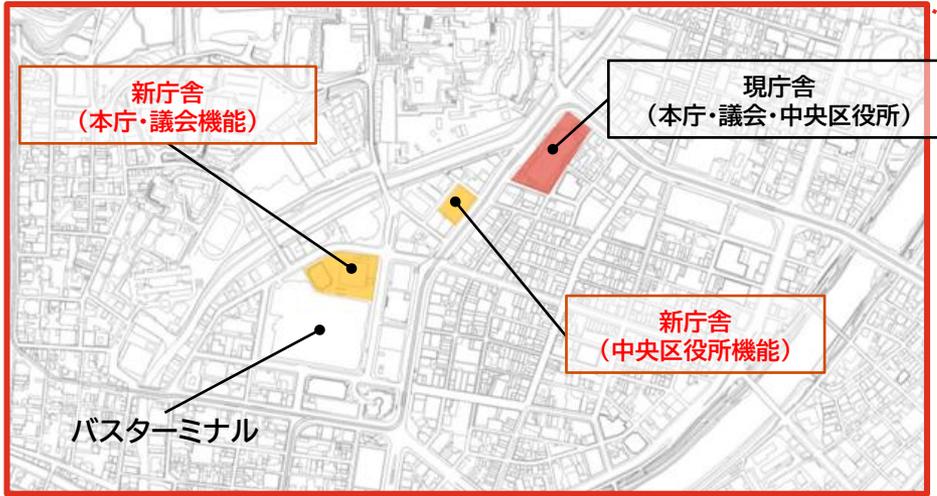
- 熊本市役所の建替えについて
- 熊本市新庁舎整備に関する基本構想(令和6年8月)
- 市民意見の聴取
- 交流・共創スペースの計画イメージ
- 想定スケジュール

<参考資料>

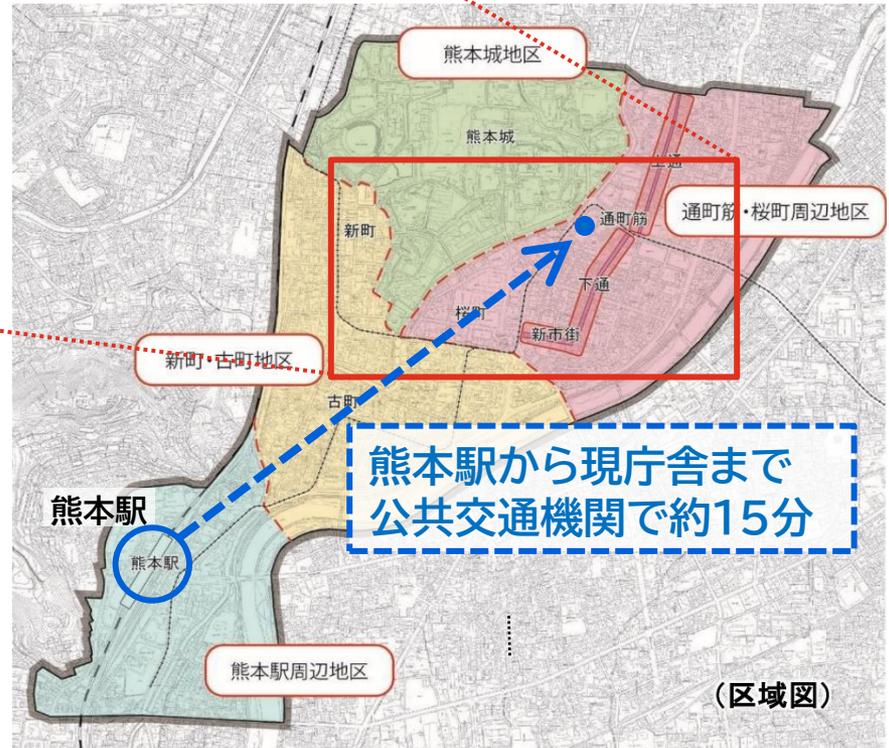
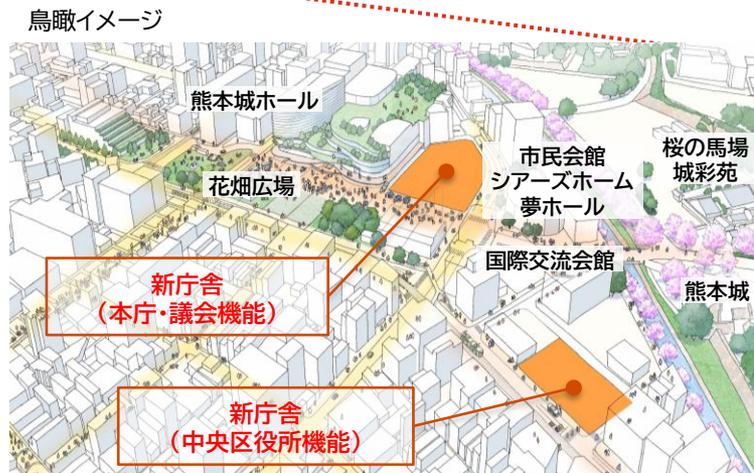
- 熊本市の魅力
- 関連計画
- 周辺施設の立地状況

熊本市役所の建替えについて

- 熊本市は、本庁舎等(市庁舎・中央区役所・議会棟)の耐震性能不足、浸水に対する脆弱性、老朽化、狭あい化という課題を解決するため、令和6年8月に、『熊本市新庁舎整備に関する基本構想』を公表しました。



現庁舎及び新庁舎は、熊本市の中心市街地に位置します。熊本駅からは市電・バスでのアクセスが可能です。



(区域図)

出典:熊本市中心市街地活性化基本計画(令和5年4月) 中心市街地の区域図

出典:熊本市新庁舎整備に関する基本構想、熊本市(令和6年8月)

● 新庁舎の目指すべき姿(3つの視点)

1 あらゆる災害に対応できる庁舎

- ・ 十分な耐震性能の確保
- ・ 浸水に対するせい弱性への対応
- ・ 防災拠点施設としての機能拡充

2 市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎

- ・ 来庁者への配慮・利便性
- ・ 窓口機能の集約等による市民サービス向上

3 まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎

- ・ 市民交流・情報発信の場
- ・ まちづくりの核

● 必要延床面積、対象職員数

本庁舎

機能	面積
本庁機能	44,700m ²
議会機能	6,500m ²
駐車場	5,600m ²
合計	56,800m ²

中央区役所

機能	面積
中央区役所機能	7,800m ²
駐車場	5,700m ²
中央区役所 合計	13,500m ²

対象職員数:約2,850人

● 交流・共創スペースの位置づけ

「新庁舎の目指すべき姿」

まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎

本庁舎等は、大正11年(1922年)に現在地に建設された時から現在に至るまで、まちのシンボルとして中心市街地の賑わい創出の一翼を担い続けており、今後もその役割を果たすことが期待されています。

このようなことから、**新庁舎は、市民に親しまれ、様々な世代の方が気軽に集うことができる賑わいと憩いの場所として、市民協働や交流に資する気軽に市民が集える庁舎を目指します。更には、まちづくりの核として、周辺地域も一体となった賑わいの創出を目指します。**

(1)市民交流・情報発信の場

市民交流や情報発信など多目的に活用可能なスペースの創設や、憩いの場としての利便施設(飲食施設等)の設置など、あらゆる世代の市民にとって親しみやすく、訪れたい場所となることを目指します。

なお、これらのスペースについても、長期的な視点から将来の社会情勢の変化に柔軟に対応できる可変性を確保します。

(2)まちづくりの核

本庁舎等が周辺地域に与える影響は、経済波及効果、地域防災力の向上など多岐にわたります。

このようなことから、**新庁舎の整備においては、庁舎単体の在り方のみならず、周辺施設との回遊性や中心市街地全体の賑わい、地域・経済交流などに資する、庁舎を核としたまちづくりを目指します。**

● 市民意見聴取の状況(令和7年度)

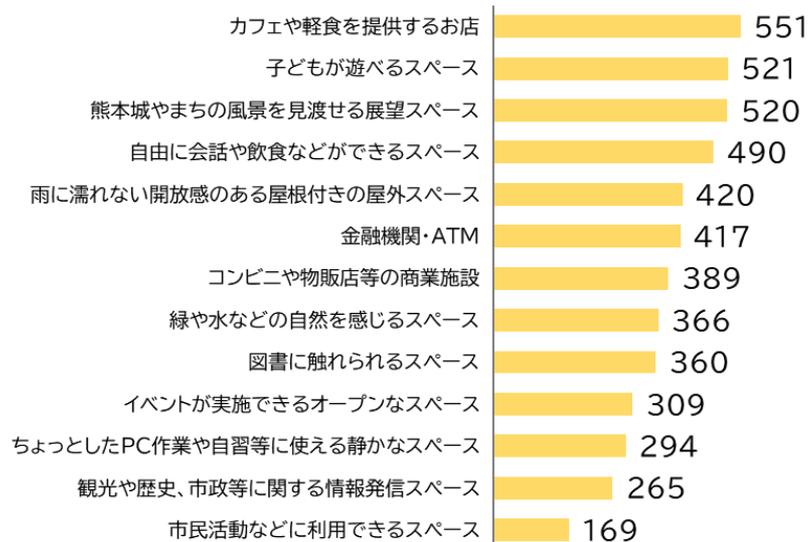
(1) オープンハウス

開催場所(開催日):花畑広場(5月3日・4日)、サクラマチクマモト(5月7日・8日)、
本庁舎(5月12日・13日)、上通(5月31日)、下通(6月8日)、
ゆめタウンはません(9月20日・21日) [計10日間]

参加者:1,702人

市民利用スペースに欲しいもの(シール投票)

「カフェや軽食を提供するお店」が551件で最も多く、次いで「子どもが遊べるスペース」(521件)、「熊本城やまちの風景を見渡せる展望スペース」(520件)、「自由に会話や飲食などができるスペース」(490件)の順となっている。

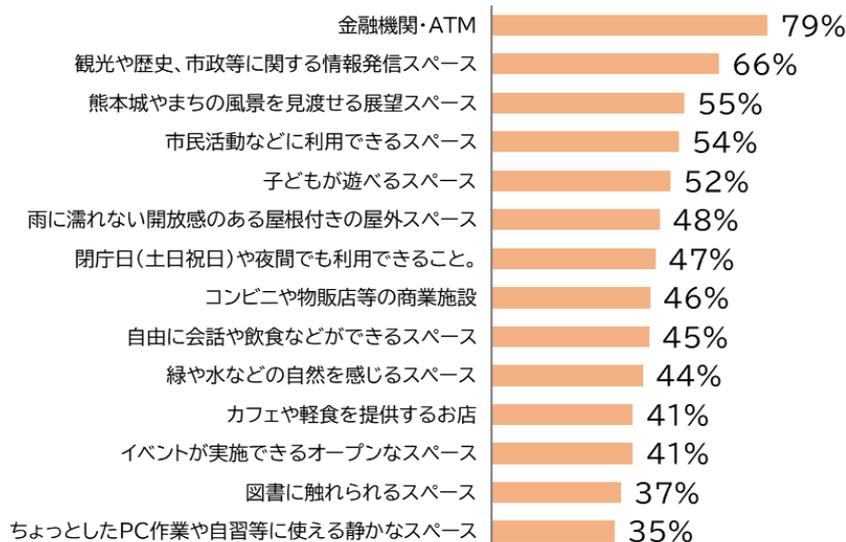


(2) アンケート

対象:本市在住で満18歳以上の方を無作為抽出
調査期間:5月20日~6月10日
回収数:742票

市民利用スペースに導入する機能の重要度 ※「とても重要」、「重要」と答えた方の割合

「金融機関・ATM」が79%で最も多く、次いで「観光や歴史、市政等に関する情報発信」(66%)、「熊本城やまちの風景を見渡せる展望スペース」(55%)、「市民活動などに利用できるスペース」(54%)の順となっている。



※ 「市民利用スペース」は、現在、「交流・共創スペース」という呼称で表現しています。

● 市民意見聴取の状況(令和7年度)

(3) ワークショップ

参加者:本市に在住又は通勤・通学する高校生以上の方 各回約30名(公募)
テーマ

第1回「まちなか庁舎を語ろう！」(6月15日)

新庁舎を契機としたまちづくりについて考えるとともに、
その中での新庁舎に求められる役割を考える。



第2回「新庁舎をどう使う!？」(7月6日)

本庁舎、区役所それぞれについて、
過ごし方や求められる空間・機能をイメージする。



↑ 第1回分科会にて報告済

第3回「新庁舎の未来を思い描く！」(8月3日)

<グループワーク内容>

これまでの成果を振り返り、本庁舎・区役所それぞれの市民利用スペースの役割について整理。その役割や建物の構成、立地特性等を踏まえ、市民利用スペースに必要な空間・機能について話し合い、意見をまとめる。



--> <グループワーク成果>

テーマ① 市民利用スペースの役割

本庁舎

皆が楽しめる憩いの場/夜間も使えるスペース/いつでも使える7/7/防災に役立つ/
ネーミングで親しみやすく/観光の拠点/情報の発信と受信(歴史・文化・地理・まちでの活動)/集い・交流の場/フレキシブルに使える/敷居が低い/熊本にきた人に文化歴史を発信し交流できる/何かしたい人を後押しする(観光・市民活動・企業スタートアップ等)/熊本愛(誇り)シビックプライドを育む場所(むかえ入れる本庁舎)

区役所

区民が憩う交流スペース/観光案内・長堀通りから本庁舎方向の回遊性をつくる/市民が話し合い活動を行える場/機能を特化させる/地元住民が情報・学びを得る/地元(区)の人達の交流や情報を発信/熊本LIFEをエンジョイする場所(つつみ込む区役所)

テーマ② 必要な空間・機能

屋上部

本庁舎
こどもの遊び場/カフェ(夜も営業)/サクラマチと接続/銭湯(災害時も)/ヘリポート/自習スペース

共通で出た意見
展望スペース(熊本城)/屋上庭園

区役所
屋根付きスペース/休憩スペース/会議室

中層部

サクラマチと接続/待ち時間を楽しく/行政サービスと市民が連携

自習スペース/情報発信スペース/コンシェルジュ(各種案内)

こどもの遊び場/ワーキングスペース/会議室

低層部

こどもの遊び場/水を感じる/フリースペース/コワーキングスペース/カフェ/会議室/シャワー(災害時も)/展示ギャラリー/サクラマチと接続/イベント利用(保護猫等の譲渡会など)

情報発信スペース/商業利用スペース/休憩スペース/オープンスペース(屋根付き)/クーリングシェルター/自習スペース/図書

多方向に出入口/多目的活動スペース/長堀通りとのつながり/多世代憩いの場/ドライブスルー手続き/市場(マルシェ)/ホワイトボードの壁/駐車場(障がい者用)/チャレンジショップ

※ 「市民利用スペース」は、現在、「交流・共創スペース」という呼称で表現しています。

- 交流・共創スペースについては、幅広い機能を想定し、可能性を検討しています。

多様な出会いや交流が生まれ、市民と職員が未来の熊本市を共に創ることができる庁舎

整備方針

- ・新庁舎の各所に交流・共創スペースを設置します。
- ・本庁舎は、「憩いと賑わいにつつまれ、新しい“何か”が生まれる空間」を目指します。
- ・中央区役所は、「人、場所、想いをつなぎ、まちに動きを生み出す空間」を目指します。
- ・本庁舎低層階には、文化的処方の拠点を設置します。
- ・災害時は、一時的な避難場所や臨時窓口設置等に活用することを想定します。
- ・夜間や閉庁日の開放や民間活力の導入、事業スキームについて検討します。

(参考)第2回分科会資料より抜粋

	本庁舎	中央区役所
方向性	憩いと賑わいにつつまれ 新しい何かが生まれる空間	人、場所、想いをつなぎ まちに動きを生み出す空間
空間イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・敷居が低く、用事が無くてもいつでも気軽に寄れる ・周辺施設と調和し、憩いにも賑わいにもフレキシブルに使える ・多様な交流が生まれ、市民と職員がつながり、共創できる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所をつなぎ、まちに回遊を生み出す ・区民の交流と活動の場 ・周辺地域や市民活動を含め様々な情報を発信する場

※すべての人が利用しやすい(インクルーシブデザイン)

※災害時にも役立つ(一時的な避難や臨時窓口設置などの活用を想定)

- 交流・共創スペースについては、幅広い機能を想定し、可能性を検討しています。

(1) 本庁舎の交流・共創スペース

■方向性

憩いと賑わいにつつまれ、新しい“何か”が生まれる空間

■具体的な機能・用途

敷居が低く、用事が無くてもいつでも気軽に寄れる

- ・ 入りやすい雰囲気開放感のあるエントランス
- ・ 飲食、休憩、会話など自由に使えるスペース
(カフェ・コンビニ等便利施設の併設も検討)
- ・ 読書、自習、コワーキングなどに使える落ち着いたあるスペース
- ・ 熊本城を一望できる屋上
- ・ 子育て世帯も気軽に立ち寄れるこどもが遊べるスペース

周辺施設と調和し、憩いにも賑わいにもフレキシブルに使える

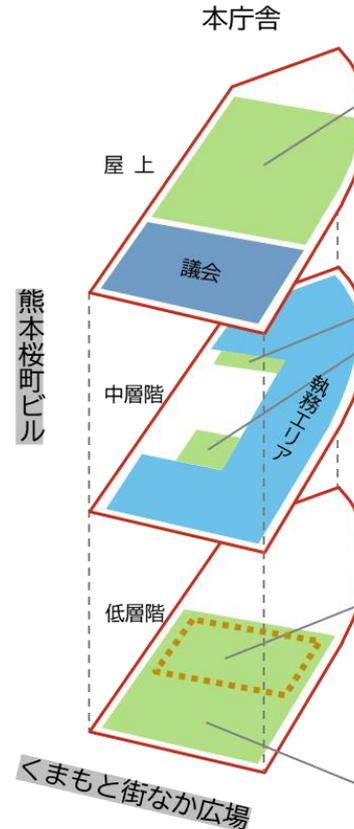
- ・ くまもと街なか広場等の周辺施設と連携でき、イベントや式典等を開催可能な多目的に活用できるスペース・半屋外スペース
(イベントがない時は、休憩や待合などに利用できる)
- ・ 熊本桜町ビルと調和し、水や緑など熊本らしい自然を感じる庭園

多様な交流が生まれ、市民と職員がつながり、共創できる場

- ・ 市民と職員の共創の場として会議や作業などが行えるスペース
- ・ 市政や観光などの情報を発信するスペース

■配置・規模感のイメージ

…交流・共創スペース



*フロア内の執務エリア等の配置構成はイメージであり、具体的な配置は基本設計段階で整理を行います。



▶打合せスペース
(横浜市本庁舎市民協働推進センター 出典：横浜市HP)



▶共創スペース
(渋谷キューズ 出典：渋谷キューズHP)



▶オープンスペース、イベントスペース
(川崎市本庁舎アトリウム 出典：川崎市HP)



- 交流・共創スペースについては、幅広い機能を想定し、可能性を検討しています。

(2) 中央区役所の交流・共創スペース

■方向性

人、場所、想いをつなぎ、まちに動きを生み出す空間

■具体的な機能・用途

場所をつなぎ、まちに回遊を生み出す

- ・歩行者が立ち寄り、観光情報等を見ながら休憩できるスペース
- ・居心地の良い歩行空間により回遊を生み出すピロティ
- ・周辺施設や商店街等と連動したイベント開催やマルシェ開催も可能な多目的に利用できるスペース

区民の交流と活動の場

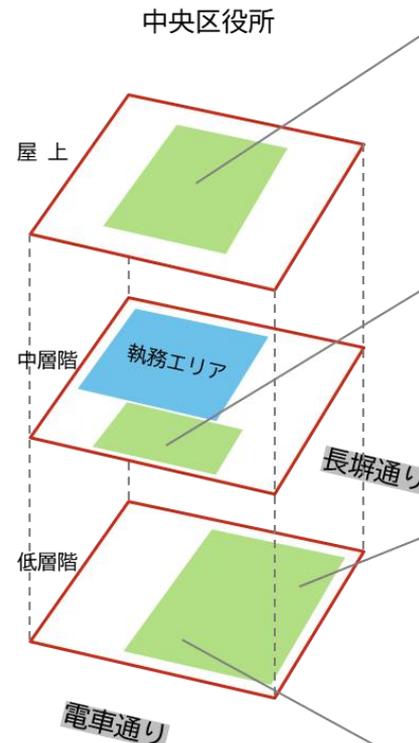
- ・区民活動や区民と職員が交流や共創できるスペース
- ・熊本城を眺めながら区民活動ができる屋上
- ・待ち時間などに利用可能な子どもが遊べるスペース
- ・読書、自習、飲食など自由な過ごし方ができるスペース
(カフェ・コンビニ等便利施設の併設も検討)

周辺地域や市民活動を含め様々な情報を発信する場

- ・熊本の歴史や震災、区の取組等を知ることができる情報コーナー
- ・イベントや区民活動へ参加を呼び掛ける掲示等が可能なスペース
- ・区民活動の成果を展示・発表できるスペース

■配置・規模感のイメージ

…交流・共創スペース



➢屋上広場
(おにクル屋上広場 出典: 茨木市文化・子育てHP ©Nacasa & Partners Inc.)



➢交流ラウンジ
(越谷市本庁舎市民ラウンジ 出典: 越谷市HP)



➢情報発信・展示スペース
(長崎市本庁舎情報発信コーナー 出典: 長崎市HP)



➢市民活動スペース
(中野区庁舎シェアノマ 出典: 中野区HP)



*フロア内の執務エリア等の配置構成はイメージであり、具体的な配置は基本設計段階で整理を行います。

- 交流・共創スペースについては、幅広い機能を想定し、可能性を検討しています。

文化的処方箋の拠点（本庁舎低層階に設置）

・文化芸術(アート)の活用(処方)によって、心の安定や社会的なつながりを促進しようとする取組である「文化的処方」の活動を新庁舎に取り入れ、人や地域がつながることによって新たな価値や関係を生み出し、一人ひとりがいきいきと暮らせるまち創りを進めます。

・特に本庁舎の低層階を、文化的処方箋の「拠点」と位置づけ、交流や会議など用途に応じ自由にレイアウトを変更できるスペース等の設置により、市民や職員が対話により交流し共創できる場「未来の熊本市をつくる広場」をつくりま

憩いと賑わいにつつまれ、
新しい“価値観”が
生まれる空間

未来の熊本市をつくる広場(日比野文化顧問が考えるイメージ・スケッチ)

- ・熊本市のことを語り合いたくなる広場
- ・市民と市役所職員と一緒にウェルビーイングの種を共創できる広場
- ・新庁舎の目指すべき姿(3つの視点)※を実現する人が育つ広場
- ・人が互いに育成(気づき、想い)する作用が自然に生まれてくる広場
- ・ここで生まれた発想が熊本市の未来につながることを夢見れる広場
- ・市役所職員のやる気が得られる広場
- ・新しい社会のイメージが生まれる広場
- ・多様な人と出会い、他者の魅力を受け入れ、異なる魅力を他者へと伝えられるような広場
- ・熊本市から世界の未来が見えてくるような広場

※熊本市新庁舎整備に関する基本構想 一新庁舎の目指すべき姿(3つの視点)

- 1 あらゆる災害に対応できる庁舎
- 2 市民が利用しやすく、質の高い行政サービスが提供できる庁舎
- 3 まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎

➤ 空間イメージ(誰でも使いやすい、フレキシブルに使える、交流しやすい、アイデアが生まれやすい)



渋谷キューズ 左:スクランブルホール 右:プロジェクトベース 出典:渋谷キューズHP



- 熊本市は、基本計画、基本設計、実施設計にかかる委託契約を発注し、現在基本計画の検討を進めています。また、市庁舎周辺まちづくりプラン(仮称)、交流・共創スペースの利活用の検討についても進めています。



現在進行中

參考資料

熊本城をはじめとする歴史・文化



世界に誇る地下水都市



清らかな水と豊かな大地により育まれた農水産物と、魅力的な食文化



街のにぎわいと自然が調和した暮らしやすいまち



- 様々なターゲット向けに各広報媒体(サイトや冊子等)を使って、熊本市の魅力を発信しています。



観光客向け

熊本市観光ガイド くま本

地元人ならではの楽しみ方がいっぱい！！

<https://kumamoto-icb.or.jp/wp-content/themes/kumamoto-icb/images/kankou/pamphlet/kumabon.pdf?20250710>



事業者向け

KUMAMOTO MICE Guide

充実したMICE環境！ウォークアブルなMICEを楽しむ！魅力あふれる都市！

<https://kumamoto-icb.or.jp/wp-content/themes/kumamoto-icb/images/convention/guide/guide-20250401.pdf>



移住希望者向け

熊本市公式移住情報サイト

心穏やかに過ごしたい日も、楽しくにぎやかに過ごしたい日も、熊本ならどちらも叶えられる。あなたらしい暮らしを始めてみませんか。

<https://kumamotodo.jp/about/>

- 熊本市中心市街地活性化計画では、通町筋・桜町周辺地区は商業・業務等の都市機能が集積しているエリアとして示されています。

熊本市中心市街地活性化基本計画

コンセプト

昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち

基本方針

- 時代の変化に応えるまち
- にぎわいあふれる城下まち
- 安全・安心に住み続けることができるまち

通町筋・桜町周辺地区

商業・業務等都市機能が集積している地区

熊本駅周辺地区

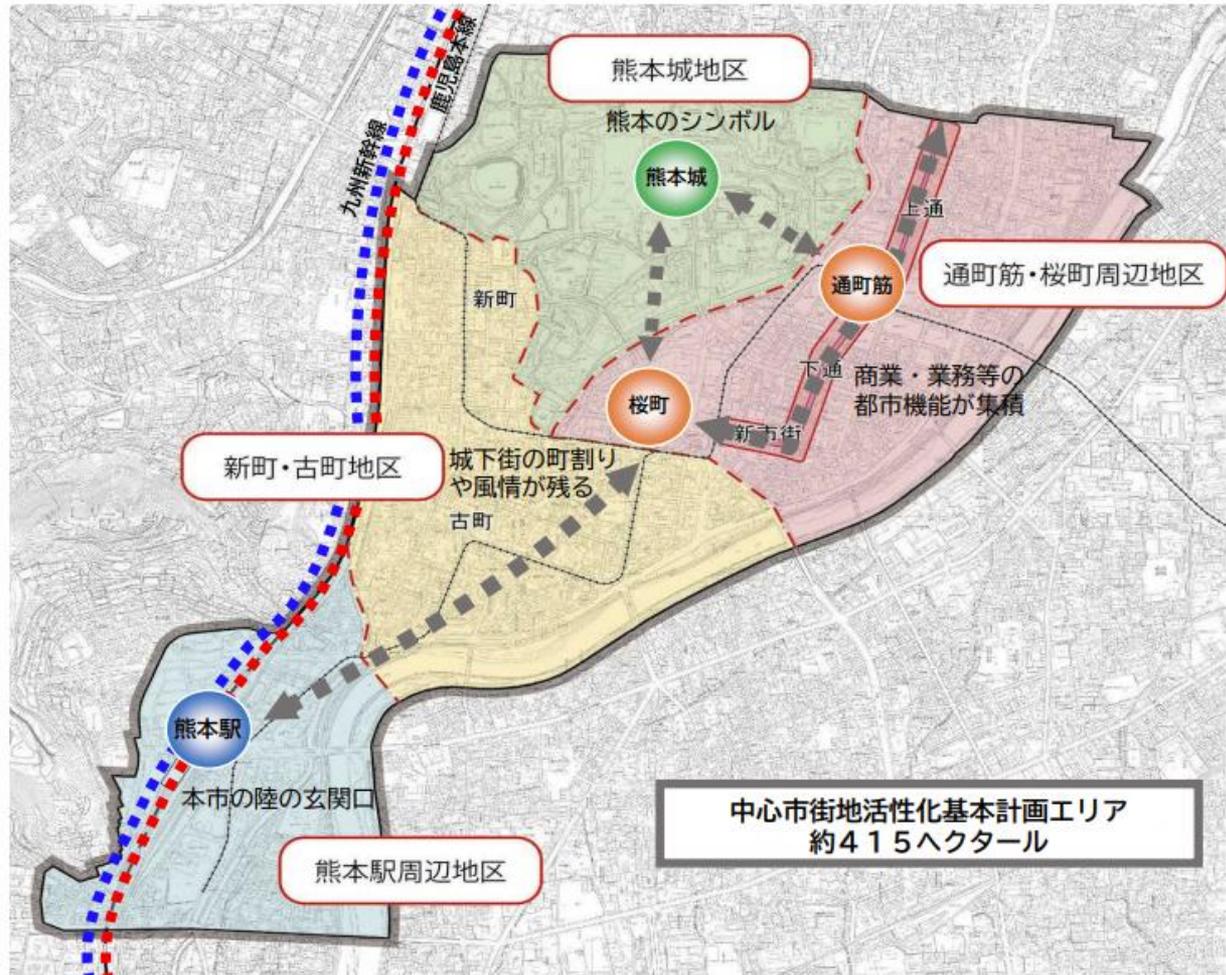
九州新幹線の開業により、本市の陸の玄関口として交通結節点の役割を増している地区

新町・古町地区

町並みルールづくりや町屋の保存活用を行うことで、城下町風情を体感できるまちづくりが進められ、熊本駅周辺地区と都心部を繋ぐ役割を担っている地区

熊本城地区

熊本城を中心に桜の馬場・城彩苑や旧細川刑部邸など多数の歴史・文化施設を抱える地区

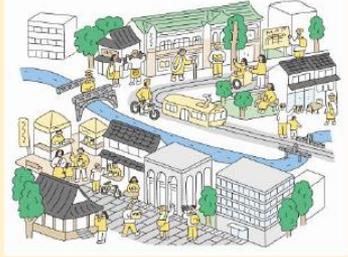


- 熊本市中心市街地ウォーカブルビジョンが策定されており、新庁舎の位置する通町筋・桜町周辺地区を含め、居心地良く歩きたくなるまちなかづくりが推進されています。

目指すウォーカブルなまちの姿

多様な人々が開かれた空間で居心地よく快適に過ごせるまち

地区ごとのイメージ

通町筋・桜町周辺地区	熊本城地区	新町・古町地区	熊本駅周辺地区
 <ul style="list-style-type: none"> 小規模でも多様な過ごし方ができる居心地の良い空間の創出 アーケード街や花畑広場を軸に、安全で快適に歩き、滞在できる歩行者空間の創出 バスや電車の乗降環境・自転車の利用環境の整備、駐車場の総量と配置の適正化 	 <ul style="list-style-type: none"> 国内外からの観光客や市民が繰り返し訪れ、自然や歴史、文化にゆっくり触れられる環境やしかけづくり 各所の歴史的価値を分かりやすく伝え、体験できる空間演出や空間利用の工夫 だれもが気軽に訪れ、楽しみながら回遊できるしかけや移動サービスの整備 	 <ul style="list-style-type: none"> 屋外での住民の交流の場やこどもの遊び場などの滞在空間の創出 まちの文化や歴史を感じながら巡り歩ける、町割りを活かした歩行環境の整備 電車通りに誰にも優しい電車・バスの乗降環境の整備と、エリアの新しい顔となる居心地良い遊歩空間の創出 	 <ul style="list-style-type: none"> 駅前広場を起点にした小規模な滞在空間や高揚感を感じさせる町並みの整備 白川や公園、緑地などの豊かな緑を保全し、野外活動の場として活用 公共交通の円滑な乗り継ぎ環境、エリア内外を結ぶ遊歩路、自転車などの低速移動サービスの利用環境の整備

本検討との関連

- 新庁舎は通町筋・桜町周辺地区に位置する。この地区はビジョンの重点エリアにも設定されている。
- 【重点エリア】中心市街地における歩行者や都市機能の集積状況、自動車交通量などのデータを整理し、人中心の空間としてのニーズやポテンシャルが高いエリアを抽出。このエリアでは、様々な取組を重点的に行うとともに、アーケード街や花畑広場を軸に人中心の空間を広げていけるよう、地域の方々とともに検討を進める。



- 本庁舎・議会棟建設予定地と隣接するエリアでは、近年、桜町再開発施設(商業施設「サクラマチクマモト」を含む)の開業、花畑広場の供用開始等、開発が進んでいます。

■ 通町筋・桜町周辺地区のまちづくりについて

観光交流施設整備

熊本城復元整備

①上通A地区再開発施設 2002年

③桜町再開発施設 2019年

熊本城

みずあかり等のイベント

上通

②手取本町地区再開発施設 2002年

現庁舎跡地

本庁舎・議会棟建設予定地

通町筋地区

中央区役所建設予定地

④花畑広場全面供用開始 2021年

桜町・花畑地区

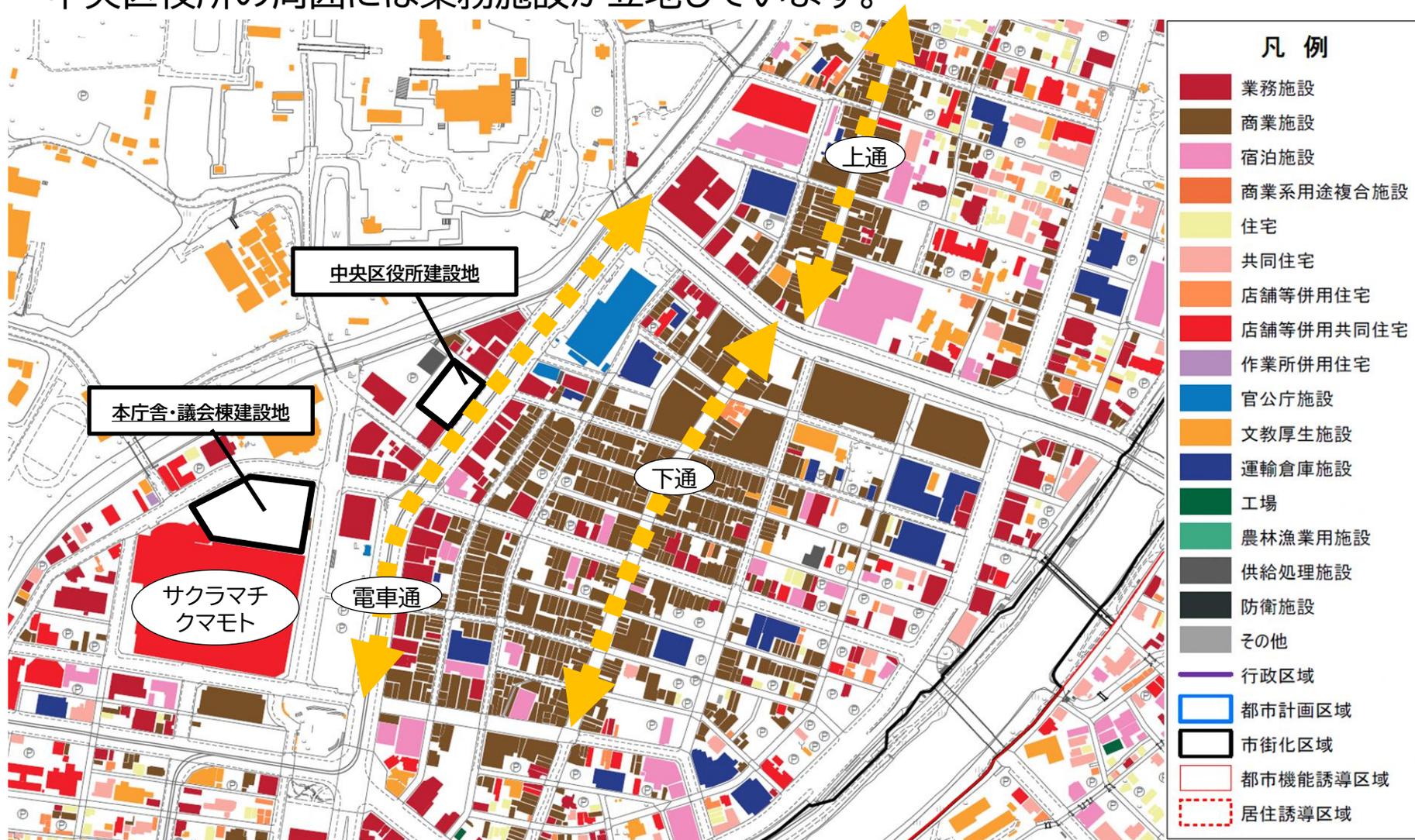
新市街

下通

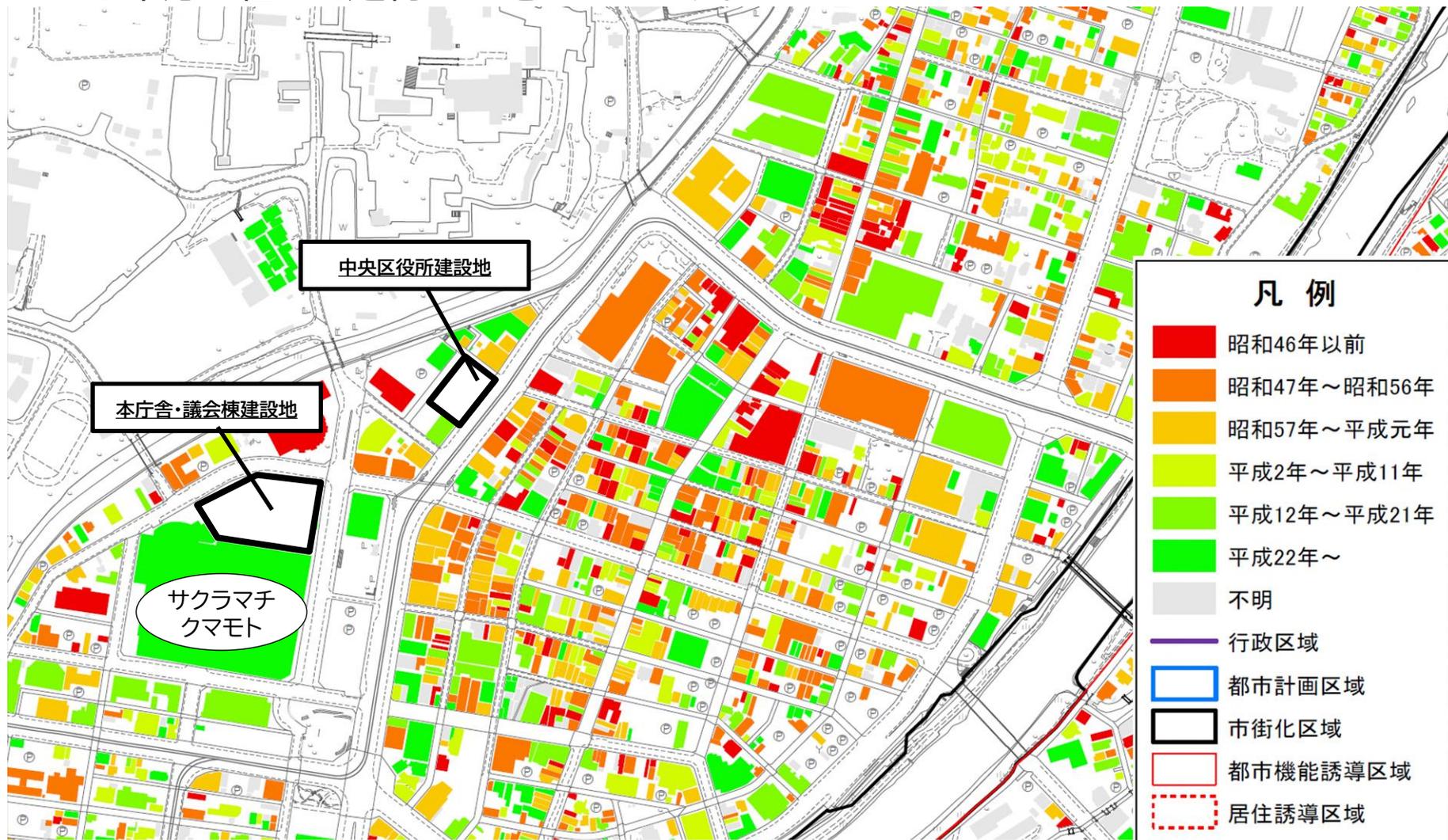
下通アーケードでのイベント

0 200m

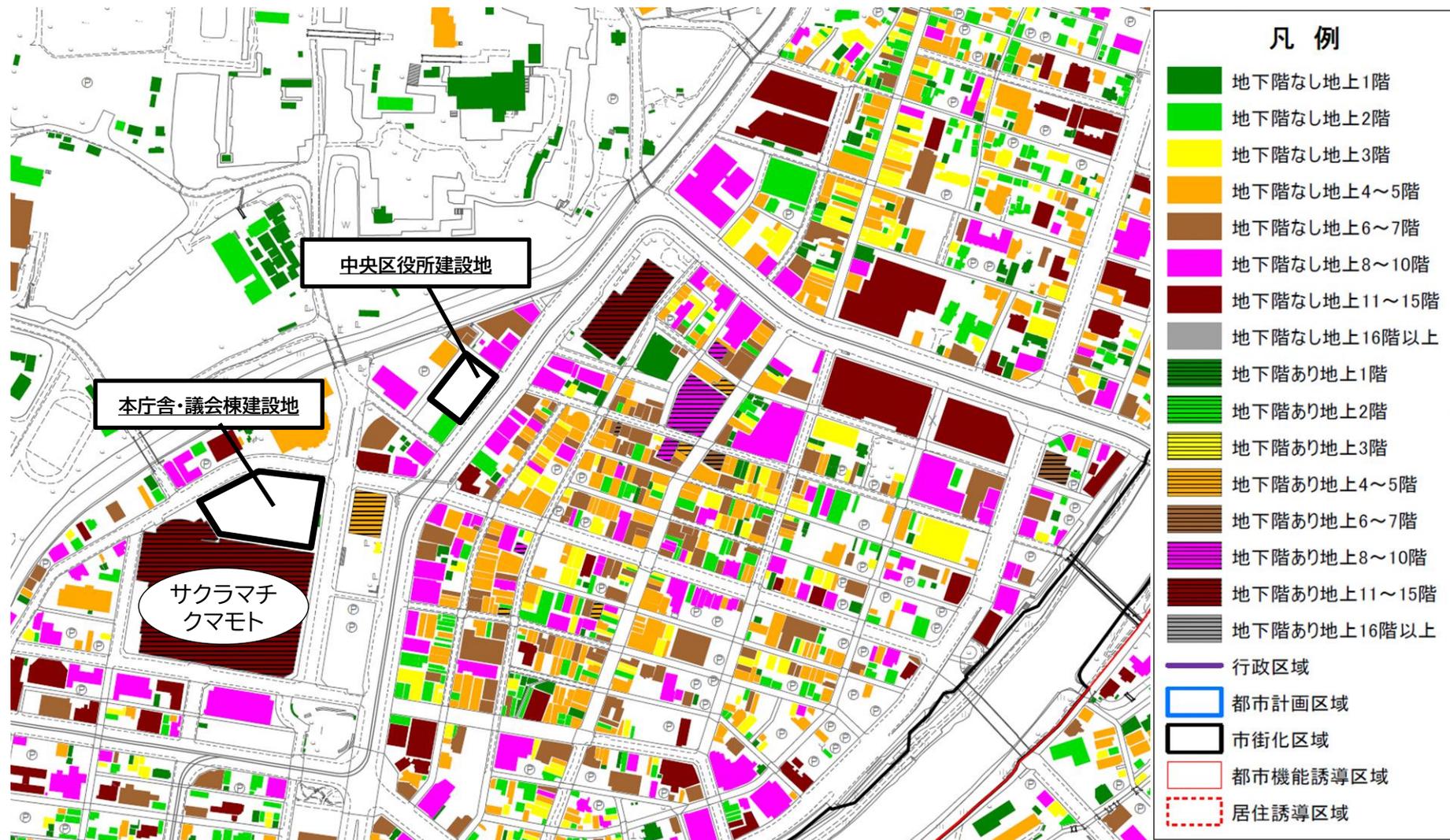
- 下通・上通商店街を中心に商業施設が集積、電車通り沿いは業務施設が集積しています。本庁舎は大型商業施設(店舗等併用共同住宅)サクラマチクマモト傍に位置し、中央区役所の周囲には業務施設が立地しています。



- 大型商業施設サクラマチクマモトは2019年に開業しており、本庁舎は近年開発が進んでいるエリアに位置しています。一方、中央区役所の周囲には、比較的建てられてから年月が経った建物が立地しています。

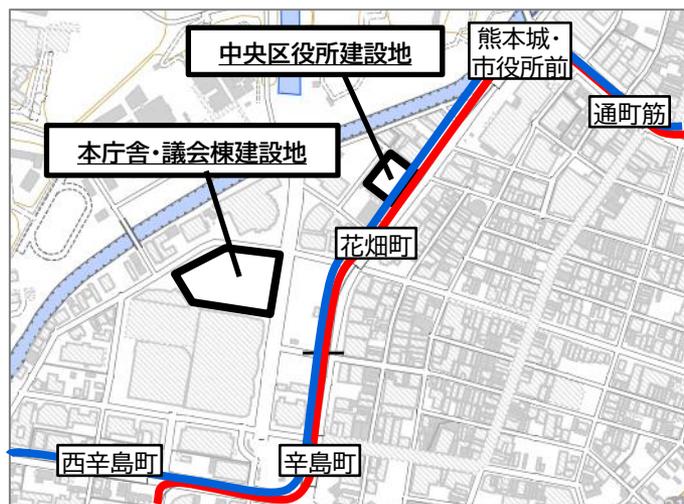


- 大型商業施設サクラマチクマモトは15階建て(ホール・住宅・ホテル部分のみ)であり、本庁舎は周辺のなかで高層の建物に隣接します。一方、中央区役所の周囲には、地上8~10階建ての建物が立地しています。



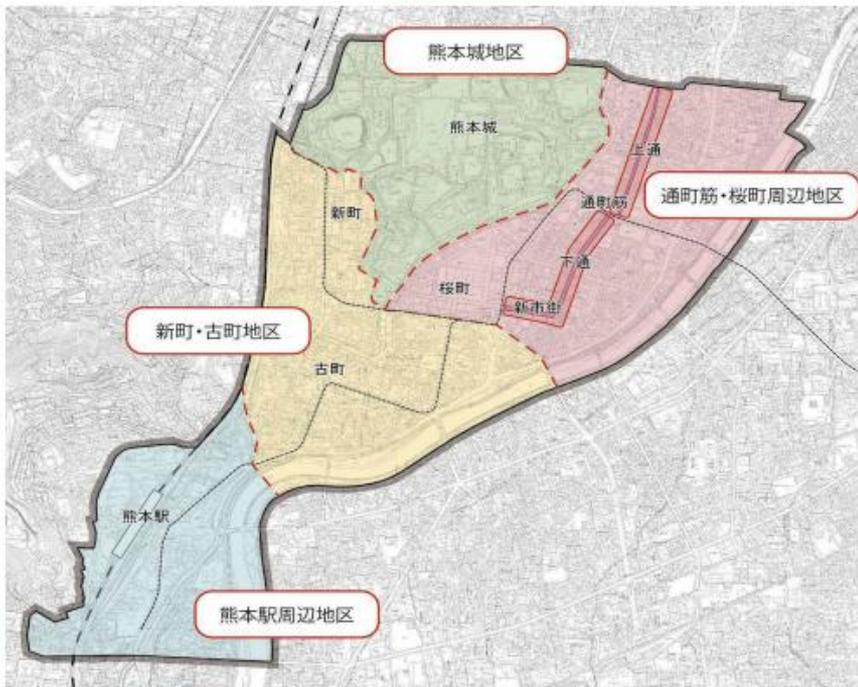
- 熊本市電辛島町・通町筋は、熊本駅前と並ぶほど乗降客数が多い駅です。中央区役所は、電車通りに面しています。一方、本庁舎は、広場を挟んで電車通りに面しています。

路線名	駅名(一部)	運行頻度 (平日)	乗降客数 ※2021年 3月31日基準
		(本/日)	(人)
九州新幹線	熊本駅	87	3,399
鹿児島本線	熊本駅	99	9465
熊本市電	熊本駅前	240	3896
熊本市電	祇園橋	242	256
熊本市電	呉服町	242	409
熊本市電	河原町	242	287
熊本市電	慶徳校前	242	309
熊本市電	辛島町	410	2841
熊本市電	花畑町	397	1026
熊本市電	熊本城・市役所前	397	1162
熊本市電	通町筋	397	3530
熊本市電	水道町	397	1546
熊本市電	九品寺交差点 (省略)	397	1007
熊本市電	新水前寺駅前 (省略)	390	2427
熊本市電	健軍町	195	3028
熊本市電	上熊本駅前 (省略)	167	1068
熊本市電	蔚山町	167	367
熊本市電	新町	167	430
熊本市電	洗馬橋	167	310
熊本市電	西辛島町	167	194

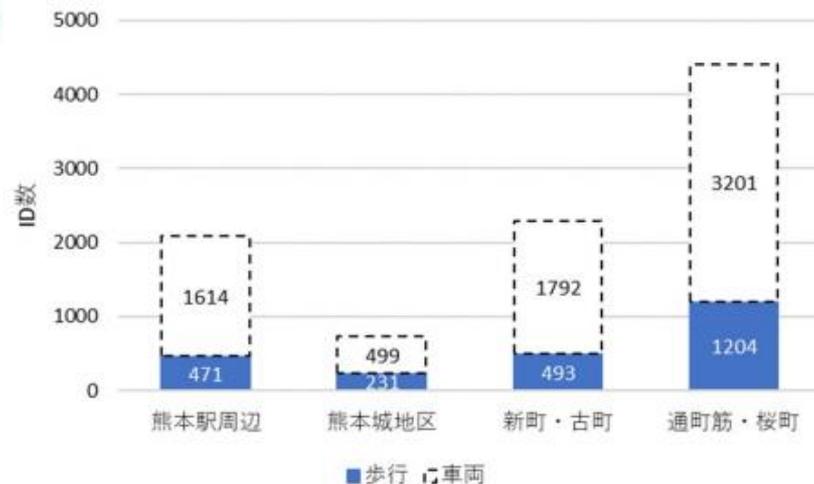


(出典)地理院地図(電子国土web)の淡色地図

- 通町筋・桜町周辺地区は、熊本駅周辺と比較しても来訪者が多く、また、車両の割合も多いことが確認できます。



平日



休日



【分析期間】

・ 2023年10-11

【データ形式等】

- ・ スマホアプリから収集したGPSデータによる
- ・ 移動の軌跡・速度から移動手段(歩行・車両)を識別

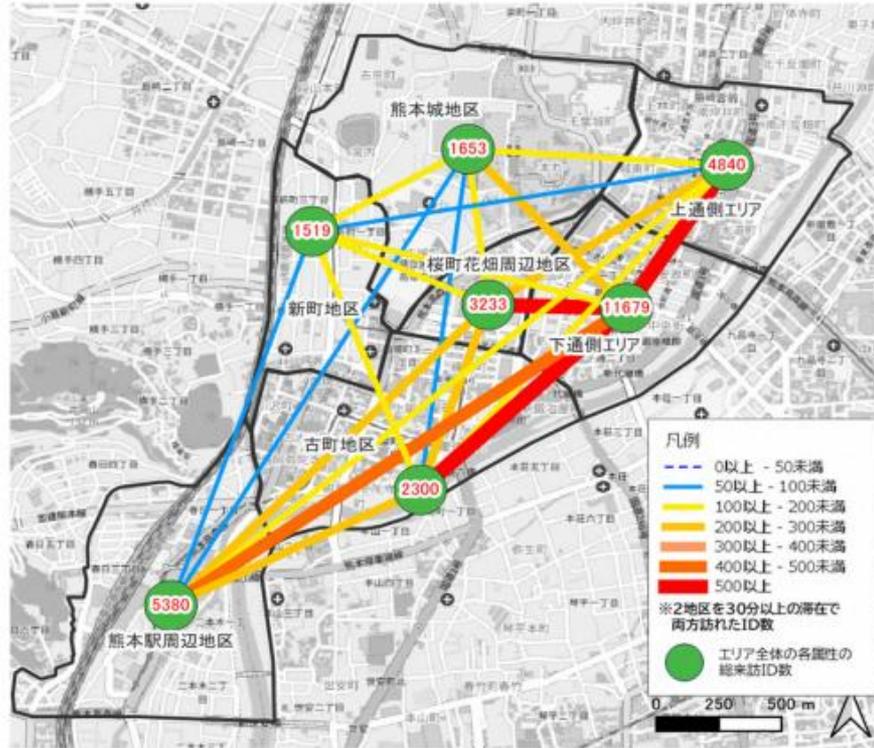
- 桜町周辺は、通町筋(下通側・上通側)と比較する来訪者が少ないことが確認できます。桜町花畑周辺地区と下通側エリア間の一定の回遊量が確認できます。

県内来訪者の回遊量

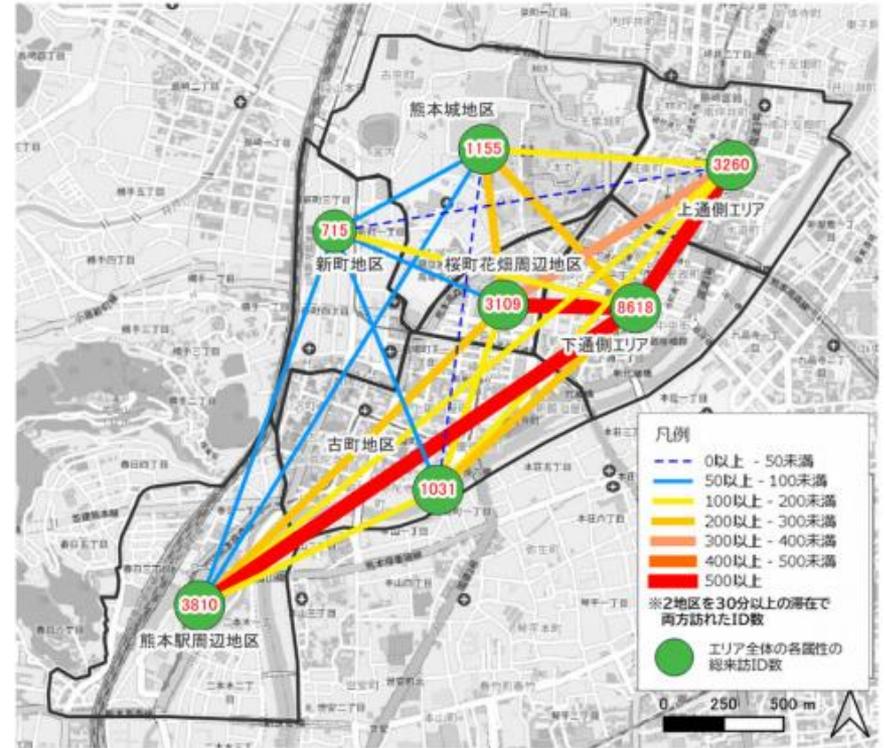
【分析期間】
・2023年10-11

【データ形式等】
・スマホアプリから収集したGPSデータによる
・移動の軌跡・速度から移動手段(歩行・車両)を識別

平日



休日



周辺施設の状況(公共施設の立地)

- 本庁舎・議会棟建設地、中央区役所建設地周辺には、以下の公共施設が位置します。



(出典)地理院地図(電子国土web)の淡色地図

周辺施設の状況(公共施設の利用)※令和5年度の利用者数

- 花畑広場・熊本城ホールの利用者数は、周辺公共施設の中でも多く、また、熊本駅付近のくまもと森都心プラザの利用者数も多い状況となっています。



(出典)地理院地図(電子国土web)の淡色地図、令和5年指定管理報告書

※1 ホール、XOSS POINT等を含む全体の利用者数 ※2 会議室、パレアルーム、情報ライブラリー、観光物産等情報提供施設(くまもんスクエア)の利用者数合計

- 花畑広場では、年間を通して多くのイベントが開催されており、令和4年度の集客数は年間200万人を超えています。



2021年11月 音楽イベント



2022年12月 クリスマスイベント



2022年3月～5月 くまもと花博

◇2022年度集客者数実績

「くまもと花博」 **72万人**

「くま博」 **56万人**、

「クリスマスマーケット」 **35万人** 等

計 **200万人**を突破

